

国立大学法人 長岡技術科学大学
令和2年度第5回経営協議会議事要旨

日 時 令和3年3月17日（水）14時45分～16時43分
【Zoomミーティングによるオンライン会議】

出席者 東議長、天羽委員、荒木委員、池田委員、小花委員、合田委員、谷口委員、トラン委員、山本委員、鎌土委員、大石委員、秋山委員、和田委員、中出委員、湯川委員
（議事の表決委任による出席 磯田委員）

欠席者 関委員

陪席者 日下部監事、野本監事、梅田附属図書館長

事務局 総務部長、大学戦略課長、企画・広報室長、総務課長、財務課長、
監査室長、総務課専門員、財務課専門員、総務課総務係長、総務課総務主任

議事に先立ち、令和2年度第4回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 令和3年度年度計画について

鎌土委員から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

○地域の考え方について、東学長が常に話していたとおり長岡周辺ではなく全国の地域が対象となり、そこは高専との連携の下に成り立つものであるから、次年度以降もその考え方を認識して進めてほしい。

●高専が所在する産業集積地を常に頭に入れ、高専、自治体、周辺企業との連携を図れるよう進めたい。

○研究実施体制の箇所での女性研究者の記載があるが、KPIの数値目標はあるか。女性教員を増やすにも時間がかかるので現状はどうか。

●女性教員の比率は第3期中期目標期間に15%を掲げている。今年度は積極的に採用し11%くらいになった。来年度はさらに上がり14%程度になる予定である。

2. 学則の一部改正について

鎌土委員から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

3. 令和3年度長岡技術科学大学予算編成について

秋山委員から、資料3-1から3-5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

4. 目的積立金で実施する事業について

秋山委員から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

5. 令和3年度資金運用方針について

秋山委員から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

6. 工学部・工学研究科（修士課程・博士後期課程）の改組について

鎌土委員から、資料6に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

○精力的な取り組みであり、しっかりと進めてもらいたい。文章では簡単に書けるので、それを具体化し実現してほしい。学生がどのように育ったか成果を出せるように、描いた人材が育つように覚悟をもって進めてもらいたい。

7. 第4期中期目標・中期計画（素案）について

鎌土委員から、資料7に基づき説明があり、本会の議論を受けて検討を進め、文部科学省への提出まで継続して審議することを確認した。

○第4期中期目標・中期計画では、文部科学省から選択する項目が示され、最大17項目まで選ぶこととなった。総合大学でも17項目であり、大綱に示されている本当にやりたいことに絞る戦略が良いか。現状では15項目を選択しており、大学の規模から考えると多い感があるが、どのように選択したのか。また、両技科大は高専連携が特色であるが、豊橋技科大は高専連携を独自項目として特出しする方向で検討している一方、長岡技科大はそれぞれの計画の中で高専連携を記載されている。この判断理由について伺いたい。

●本学でも高専連携を特出しとするか検討したが、特出しにすると他の項目での内容が薄くなると考えた。例えば社会との共創の項目では、各地域のモデルを全国や海外にも展開するという高専との共存・共栄を意識したつくりとなっている。教育や研究の項目も同じように考え、各項目の中に記載した。

○高専連携を含めた地域の考え方について、高専と高専がある地域、それを全国展開することがわかりやすく記載されている。実績を挙げながら実現していくプロセスを見せられると理解されやすい。成果を出すことを意識して取り組んでほしい。

○前文にSDGsの記載があるが非常に重要であり、もっと表に出すとともに、技科大を出た学生がこのようなコンセプトを持った学生であってほしい。5年、10年以内に、日本の企業がSDGsに貢献することによって、株価が大きく変わることが予想されている。企業から長岡技科大の学生を求められるようになれば良いと思う。

○各項目を選択していく中で技科大のビジョンを明確にするには、前文が大事だと思う。他大学と何が違うか、どのような人材を育てるのか、はっきり書いた方が良い。前文の4項目に記載されているが、一般的な内容のような感じがする。技科大としてのビジョンを表現し、打ち出せると良い。

○評価指標については、どうしてもインプットレベルの指標になりがちである。社会的な視点

では、どのような人材を輩出していくのか、中期目標期間で何ができるのかを知りたい。どこかでアウトカムベースの指標にもっていかなければならない。すぐには難しいが、教育分野であれば、学生がどのような能力を身に付けているのかモニターしていく中で、本学の学生はここが違うということを見える化していく方法を検討してほしい。また、そのような能力が身に付くことを学生が自覚すると、自己形成的にそのようになっていくということも期待できる。

報告事項

1. 先端研究設備整備補助事業の採択について

鎌土委員から、資料8に基づき、報告があった。

2. 令和3年度経営協議会の日程について

事務局から資料9に基づき、令和3年度の日程について説明があった。

以 上